

## 介護状態生命表の作成

-高齢期のライフコース分析のために-

田中 周二\* 長谷川敏彦†

2017年11月1日

### 概要

日本の高齢化問題はますます深刻化しており、死に至るまでの収入の確保（年金）も重要であるが日常生活の健康（QOL）の確保（医療・介護）もそれに劣らず重要である。高齢期のこのような問題の解決のための基本的なツールとして、健康状態の変化を組み込んだ多状態生命表の作成が必須である。本稿では、S 県 H 市の介護保険の要介護度の履歴データを含む縦断データ（2006-2016）により、マルコフ過程モデルを使って、性別・年齢別の推移確率を推定した。これにもとづき、H 市の多状態生命表を作成した。前半では、この作成過程について説明する。

後半では、この確率推移行列と、全国ベースの介護保険事業年報の要介護度別年齢階級別人口を組み合わせることによって、日本全国の多状態生命表を作成する。このための方法論の開発が本稿のもう一つの目的である。

最後に応用として、得られた推移確率を用いて、2040 年後の状態別の人口予測を行い、超高齢化社会の姿について議論する。今後の社会保障費用の見通しの中で、医療保険と介護保険の伸びが著しく、2000 年以降社会保障と税の負担、それに伴う国家財政の健全化は内政上の最重要課題であり、中長期的にもそうあり続けると考えられる。その観点からも高齢者の健康状態について正確な見通しを推計することは政策判断にとって、今後ますます重要性を増してくると思われる。

キーワード 介護保険, 要介護度, 認知度, 寝たきり度, マルコフ過程モデル, 推移確率行列, 多状態生命表

## 1 はじめに

2000 年に発足した介護保険は、今年で 17 年を経て年金・医療と並んで高齢期を支える社会保障の 3 本の柱としての 1 本として定着している。

---

\* 発表者, 日本大学文理学部

† 未来医療研究機構 代表理事